

鈴鹿市立天栄中学校 第5回学校運営協議会 報告書

1 日時 令和8年2月10日(火) 16:00～ 17:40

2 場所 天栄中学校被服室

3 開会挨拶(城ノ口委員長)

*私の課題としては、学校の環境を改善するため天栄中の駐車場を広くしたいと以前から考え、就任時に市に文書でお願いした。2月中に文書で回答をいただきたいと市に要望も出している。

委員長の言葉を受けて

*体育館の照明等、改善に時間を要することが多い。

→しっかり見定めて報告を挙げていかななくては変わらない。

→予算は市内40校のバランスも見て決まる。さらに、優先度順なので市としてもすぐには対応できない。

→最低限度の環境を確保するために地域の間がどう支援できるか。地域のボランティアの関わりでできることもあったら教えてほしい。こういった不備があるのかも共有できればよい。

4 報告・協議事項

(1) 令和7年度本校の教育活動を振り返って

各担当者より、今年度の成果と課題について説明がなされた。その後、質疑応答がなされた。

①学力×ICT活用

*教員1人1回は公開授業を実施し、各自が立てた目標に向けて授業改善を行うことができた。LDX事業に取り組んだこともあり、外部の講師や異校種の教員などに授業を観ていただき、アドバイスをいただけたことも良かった。

*アンケート結果は概ね肯定的意見が多かったが、目標の数値に達しない学年もあったことから、さらなる改善が必要である。

*子どもたちが自ら進んで学ぶには、他者との対話の中で自分では気づかないような意見を聴き入れることで、深く学ぶことができると考えられる。他者の意見を得るにはつながりのある関係性が必要であるため、引き続き承認活動や人権部のつづり作文等を通してつながりを深めていきたい。

*ICT活用においても、子ども同士や子どもと教員がつながりをつくるためには、どのようにICTを活用すれば効果的であるかを模索していきたい。

(質疑応答)

*ICT活用は教員全員で活用方法を出し合って交流しているか。

A: 同じ教科の教員間で教科の特性に合わせて研究している。先進校を視察した際は還流し、今回の事例は本校では適するのかどうか検討している。

*良い活用方法を選び取るのには時間がかかりそう。鈴鹿市の中学校で情報共有できないのか。

A: 今年度はLDX事業があり、校区の先生方と情報共有する場面は多かった。教科ごとに情報共有できる研修もあるが、生徒の状態や各校の大事にしている点が異なれば他校でうまくいった実践でも本校には合わないということもある。生徒の反応も注視しながら模索することが必要となる。

*子どもたちの ICT 活用能力は上がってきているか。

A：活用しているアプリも増え、以前より技術は向上しているように感じる。情報活用能力は計画を立てて学習していく必要があると感じている。

*AI について歯止めはあるか。危機感についても伝えているか。

A：子どもたちは最近よく使っている様子である。技術科の授業において、使用する際の注意点を指導し、子どもたちの情報リテラシーを養っている。

*「誰一人取り残さない授業・クラス」を目指すことは良い。できなかったとき、取り残されてしまった生徒にどのように対応するかを考えておいてほしい。

②長期欠席対策

*生徒支援部会で週に一度情報共有ができたことは生徒把握においては有効であったが、対応策を検討するには人数が多く時間が足りなかった。1人～2人ピックアップする機会を設けるなど、来年度は会の持ち方を工夫したい。

*教育相談を毎学期実施し、生徒一人ひとりと話す機会をもつことができた。しかし、学年によっては行事と重なってしまったこともあり、教育相談時間を調整することが難しかった。

*「教育相談はまだですか？」と訊いてくる生徒がいるが、教育相談期間でなくてもいつでも気軽に相談してほしいと教員は考えているし、生徒にも伝えている。生徒を一番に考え、相談しやすい環境をつくっていきたい。

(質疑応答)

*今年度、長期欠席の生徒数は増えているのか。

A：昨年度に比べ、あまり変化はない。

*生徒の保護者と関わることはあるか。

A：元気に登校している生徒の保護者とは、欠席時の電話連絡や保護者会に関わる機会がある。登校できていない生徒の保護者とは、担任からの電話連絡や家庭訪問、保護者も参加する個別の支援会議で関わるができている。

③地域連携

*地域の方と目指す学校像、子ども像を共有して共に学校づくりを目指したい。

*今年度は、tetoru を活用して保護者には多くの情報を配信することができた。地域に対しては、回覧や HP を通じて発信することができた。

*部活動の地域移行にともない、生徒が学校単位で休日の行事に参加することは難しくなってくる。今後、どのように関わっていくかが難しい。

(質疑応答)

*学校部活動の一環として、休日に開催する地域の行事に参加させることができないということは、地域の行事等主催する側は把握しておくべきと思うが周知されていない。地域移行を進める市が周知に尽力すべきではないか。

A：部活動の地域移行に関しては教育指導課の管轄となる。

*天名地区のイベントでは、今まで吹奏楽部に演奏をお願いしてきた。今後できなくなるといふことか。

A：学校部活動としての出演はできなくなる。

*学校部活動を地域スポーツクラブに移行する話は20年くらい前からある。なかなか解決しない難しい課題であるため、大丈夫か心配している。

④非認知能力育成

*承認活動等つながりをつくる教育活動の成果か、アンケートでは社会性に関する項目の数値は高かった。しかし、セルフコントロール・やり抜く力・自己肯定

感に関しては否定的な意見の割合が高い項目もあったため、来年度は取組の改善や工夫をねばり強く行っていきたい。

*非認知能力を育成することは、学校教育活動だけでは限界があるため、家庭でも協力いただけるよう、情報発信していきたい。

(質疑応答)

*非認知能力の1つであるセルフコントロールは、子どもだけでなく大人も含め、難しい課題である。

A：鈴鹿市としては、来年度も非認知能力育成に力を入れていく。

⑤特別支援教育

*支援学級の生徒数は今年度22名であった。生徒数が多い中、休職や介助員の欠員等で教員・介助員のシフトを組むことが難しく、対応に苦慮した場面があった。

*支援学級での朝の打ち合わせやシステムを活用して、情報共有を行うことができた。しかし、担当に連絡がなかなか入らない場面もあり、情報共有の方法など新しいシステムが必要と考えている。

(質疑応答)

*連絡が付きやすいシステムは、他の学校ですでに使われていないか。共有できないのか。

A：年々特別支援の生徒が増え、情報共有にも工夫が必要となっている。市の特別支援教育研究会など市内や校区の担当者が集まる場で他校の担当者とは対話し、情報交換や情報共有をしていくことで良い改善案を得られる可能性がある。

⑥生徒指導

*SNSのトラブルを未然に防ぐため、講師を招き、生徒が講習を受ける機会を設けることができた。

*SNSを介した金銭トラブルや言葉のトラブルなどがあった。

*3学期のいじめアンケートの結果は0件であったが、1、2学期は数件あった。いじめの未然防止などきめ細かな指導・支援を目指していきたい。

(質疑応答)

*他校の保護者との会話の中で、卒業後に生徒同士で宿泊をともなう旅行を計画をしていると聞いた。そのような生徒がいることを把握しているか。

A：もし、そのような事案を知ることとなった場合には、未成年の外泊はいけないことを保護者と連携して指導することとなる。SNSや学校外での生徒通しの話については把握が難しい。まずは、各ご家庭で指導していただきたい。

⑦人権教育

*つづり作文を今年度も全学年で実施することができた。

*今年度は、出会い学習を取り入れ、講師や保護者の方から直接お話していただく機会を得た。

*教員対象の人権研修を4回実施することができた。さらに、人権レポートを職員全員で取り組み、生徒の理解を深めることができた。しかしながら、取組が教員の負担になってしまっているのはいけないので、目的や意義はしっかり共有しつつ、効果的な方法を模索したい。

*学校だけでなく、保護者の方にも人権学習の内容を周知していきたい。

(質疑応答)

* つづり作文は、個人の思いがストレートに出てくるものか。きれいごとにはならないか。

A：自己開示ができる子からどんどん広がっていく。始めは様子をうかがっていた生徒も、仲間のとのつながりから安心感を得て、自分を少しずつ開示していく。

* パソコン打ちではなく手書きか。

A：手で書いている。つづり作文は、パソコンで国語の作文のように書くものではなく、自分の思いのままに書くことが大切だと考えている。

* 自己開示に抵抗感がある生徒にはどう対応するか。

A：今回はみんなに読まれたくない等、本人の思いをききながら、担任のみ読ませてもらうといった臨機応変な対応をとっている。無理強いはしない方針である。

⑧ 生徒会

* 体育祭を生徒が主体となって開催できるよう、サポートすることができた。

* 生徒指導部と生徒会が協力して、鞆のキーホルダーや自転車のステッカーについて執行部の生徒から全校生徒に呼びかけて改善を促すことができた。

* 昨年度、学校運営協議会でのご助言を生かし、ピンクシャツ運動を地域に広げることができた。回覧で取組について周知を図り、公民館にのぼり旗の設置も行った。しかし、生徒会が担当する行事の準備ともスケジュールが重なり、生徒に負担があったように思う。来年度は執行部の生徒ではなく、委員会に委託できないか検討している。

* 生徒会の活動を全職員・全生徒に広め、周知する必要がある。

* 目安箱を設置し、生徒会以外の生徒から意見を得ることができたが、そういった意見に向き合うような生徒会らしい活動が多忙によりなかなかできていない。生徒会が携わる行事が続くと、生徒の負担が大きくなっているように思う。

(質疑応答)

* 生徒会の活動を知るためにも、生徒会だよりを発行してほしい。

A：半期に1回程度のペースで発行している。現在、生徒会研修会での学びや今後どんな活動をしていきたいかについての生徒会だよりを生徒が執筆中である。

⑨ 小中一貫

* 今年度は学期ごとに小学校訪問を実施することができた。継続して訪問することで、各小学校の変容に気づくことができた。来年度は、職員に小学校の様子をわかりやすく発信していきたい。

* 学びよつなぐ！プロジェクトは、今年度も稲生小を入れた5校で実施する予定である。

* 中学校での授業の成果物を小学生にも共有し、感想やアドバイスをもらうことができた。来年度も交流する機会を広げていきたい。

(質疑応答)

* 「チャット」とはどのようなものか。

A：Google チャットを活用し、校区小中学校の研修長が気軽に情報共有を行っている。出張で足を運んでいた頃よりも頻繁にやりとりするようになった。

⑩ 教職員の働き方改革（業務改善）

* 職員の3分の1が経験年数10年以下であり、業務の平準化が進みにくい現状はあるが、校務分掌の組織改善によって役割が明確になり、各分掌担当者がリ

ーダーシップを発揮して業務を遂行できるようになった。

*職員に求められる「〇〇教育」というものが多い。さまざまな調査や報告書も多く、なかなか多忙が解消されない。業務改善を行い、職員の時間を確保していきたい。

(2) 卒業式【3/6(金)】について

教頭より、来賓宛案内状の送付について連絡がなされた。協議会終了後、出欠用紙をご提出いただきたい旨依頼がなされた。

(3) 今後の行事予定

- ・ 3年生保護者会 2/16(月)、2/17(火)
- ・ 学びよつながれ!プロジェクト 2/25(水)天名・郡山、26(木)合川・天名・稲生
- ・ 1, 2年生学年末テスト 2/26(水)~2/28(金)
- ・ 卒業証書授与式 3/6(金)
- ・ 校外学習(2年生) 3/17(火)
- ・ 県立後期選抜 3/10(火) ※合格発表 3/17(火)
- ・ 第6回学校運営協議会 3/13(金) 16:00
- ・ 修了式 3/25(水)

5 その他

*主幹教諭より、「もっと鈴鹿プロジェクト」(3年生理科)参観についての案内がなされた。

*次回 第6回学校運営協議会

日時:令和8年3月13日(金) 16:00~

場所:天栄中学校被服室